

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況（振り返り）」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型としての理念を作りかかっているが、それを利用者個々人の生活まで落とし込んで実践するまでに至っていない。	職員一人一人が理念を理解しそれを基にして利用者それぞれの生活を援助する。	勤務表やケアプランなどに理念を明記し意識づけを行い、利用者の個々人の生活に反映し、気づきを得られるようにしていく。	10ヶ月
2	13	職員は外部、内部研修に参加しているが、そこで得たものが利用者やGH全体にうまく生かされていない。また事業所内の組織役割なども職員が把握できていないため、向上する意識が薄い。	気づきや意識の向上を図り。スタッフ全員がGH全体の業務内容を大まかに把握できるようにしていく。	研修を受けそこで得たものをGHで生かされるよう、皆で話し合いをしたり、法人内の交流の機会を多くもち、気づきや意識の向上を図る。マニュアルなどで業務内容を明確にし個々人がGH全体の内容を大まかに把握できるようにしていく。	10ヶ月
3	41	献立については、職員が持ち回りで作っており個人に合わせたカロリー量、栄養バランス等高齢者向けの献立内容を学ぶ必要がある。	高齢者に適したメニューを学び栄養バランスの取れた食事を提供する。	管理栄養士の協力を得ながら、GH内で食事に関する係りを決め、その人たちを中心に検討していく。	10ヶ月
4	44	便秘について健康、精神面に及ぼす影響大きく、また、身体を動かさない等のことから、どうしても下剤に頼りがちであり、意識の改善が必要である。	NSや栄養士とも連携を図りながら、なるべく下剤を使用しないで、自然排便できるようにしていく。	下剤に頼らずその人なりの体の調子をそれぞれが把握し適度な運動や水分全体、献立、食形態等の検討も含めそれぞれの個人にあった方法をスタッフで検討をしていく。	10ヶ月
5	42	習慣や、身体、精神状況等から口腔ケアが満足に行えていない。声掛けの工夫やチームとしての対応が必要。	チーム内で個人にあった介助方法を再度統一し、口腔内の清潔を保っていく。	毎食後に口の中の汚れを落とせるような工夫や、気づきを得てチーム内で統一した介助方法を検討し実行する。	10ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。